



Table with columns: 級別, 氏名, 府県, 卒期, 決勝出走, 優勝, 1着, 2着, 3着, 除外, 勝率, 連対率, 前4ヶ月得点. Lists various riders and their performance statistics.

やるぞ! 魅せるぞ! 地元勢



石橋 慎太郎 [静岡・88期・S1] 大木 雅也 [静岡・83期・S1]

石橋 いよいよ静岡の記念大会が始まりますね。大木 そうだね。今回は(渡邊 晴智さんと、新田さんが不参加だし、オレたちが頑張らなきゃね。石橋 そうだね。ボクは最近、は記念の準決勝もいってないので、大きなことを言えないんですけど。大木 5月の高松では、慎太郎

スポットライト!



柴田 竜史 [静岡・96期・S2]

引っ張る ダッシュ力は折り紙付き。S級2班ながら、競走得点も107点台まで上げ、メキメキ力をつけてきた。今年の6月武雄でうれしいF1優勝。それも3連勝のおまけが付いた。GIIの共同通信社杯杯杯でも2着連対を果たした。「今はとにかく練習をやって、自分の持ち味を出し惜しみしない競走を」心掛ける。地元記念に臨み「やっぱり気持ちも違うし、緊張もする。でも主権を取りたい。地元の先輩を引っ張り、目標は決勝進出」とやる気は120%だ。



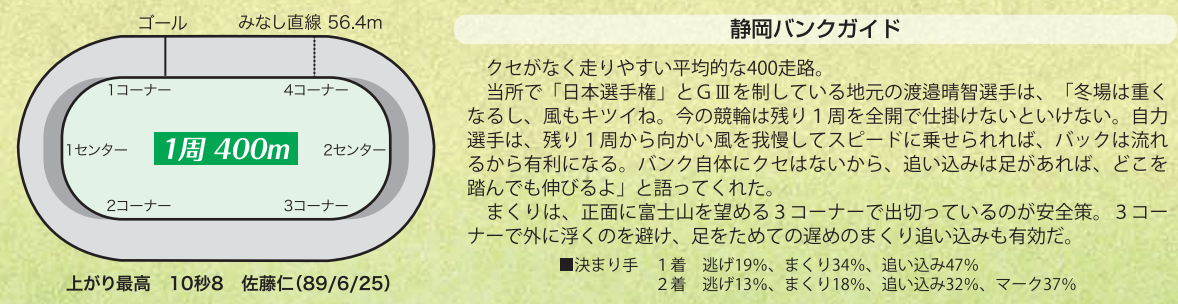
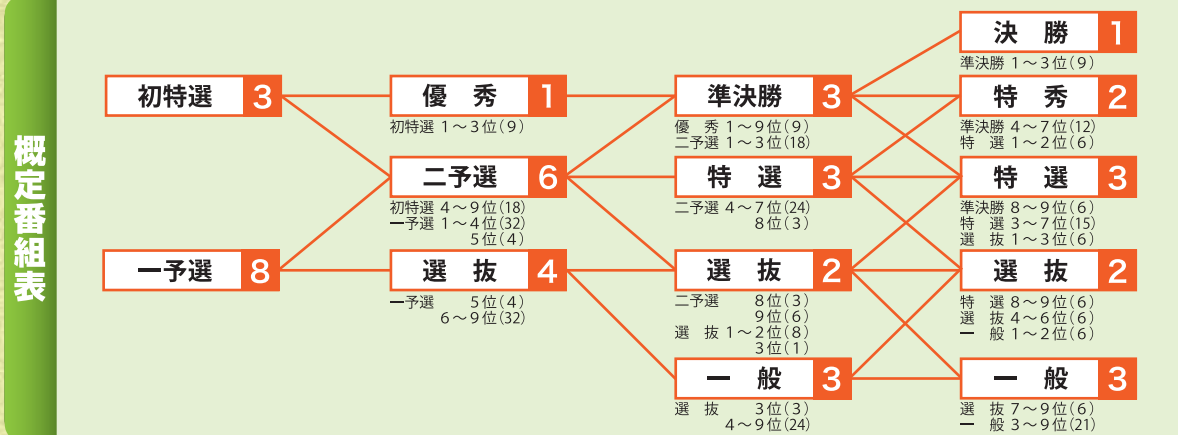
土屋 裕二 [静岡・81期・S1]

「伊豆の黒豹」も近年はケガとの戦いを強いられている。しかし、不調時でも決勝に進出するなど、地元戦では堅実な走りが目立つ。当記念出場は9年ぶり。自慢の差し足をきっちり研いでくるだろう。



松永 晃典 [静岡・76期・S1]

晴智や新田不在の穴はオレが埋める。07年以来的地元記念参戦に「清水の闘将」が燃えてくれよう。番手を回れば、ポテンシャルを発揮するタイプ。ラインの機動型が豊富な今大会、気合が入らないわけではない。



静岡記念を徹底検証!

V争い混とんの戦国シリーズ! 記念連覇へ岩本が主役

展望



荒井 崇博 [佐賀・82期・S1]

抜群の相性誇る 今大会は、地元の大看板・渡邊晴智や新田康仁もいない。S班を含む「競輪祭」に参加する選手も不在。そんな誰にでもVチャンスのある戦国シリーズで、一番のアドバンテージを持っているのが岩本だ。当所での戦歴は、A級時代の完全Vに始まり、S級に昇格してからも3走すべてで決勝に進出。抜群の相性を誇っている。しかも、今大会の参加メンバー中、今年GIIIを勝っているのも岩本だけ。9月の取手記念(松



岩本 俊介 [千葉・94期・S1]



明田 春喜 [北海道・89期・S1]

柴田は、2月の前大会では二次予選敗退。しかし、半年間で全体的なスキルの底上げに成功。ひと回り成長した姿を地元ファンに見せてくれるだろう。この地元戦に復活をかけた。石橋は、今年はまだ優勝がない。自身のキャリアでも最本意なシーズンを送っているだけに、並々ならぬ決意で臨んでくる。

特注選手ピックアップ



坂上 忠克 [石川・71期・S1]

派手さはないが堅実な走りは玄人のファンにはたまらない存在。どこらともなくやって来て、ゴール前は好勝負を演じている。基本的には追い込みだが、自力型が不々弱い自力型が相手なら動いて勝機を見出す。2008年の当所「日本選手権」では2日目の一般ながら1勝。久しぶりのGIIIで燃えないわけがない。



北津留 翼 [福岡・90期・S1]

宝の持ち腐れ?力は折り紙付きなのに、それが成績に表れない。苦しい時は滅法強い反面、格下相手に強い時はワイルドクルスのスピードを生かして切れない。それでも最近では徐々に安定感も出てきた。F1では取りこぼしも少なくなってきた。当所は「昨年のF1で決勝3着。主権奪還さえ結果はついてくる。



松岡 健介 [兵庫・87期・S1]

やっと本来の力強い動きが戻ってきた。あの村上義に「健介は強い」と言わしめさせた逸材。8月のG1「オールスター」予選で落車。パランスを崩したが「だいたい戻ってきた。もう少しです」と明らかな表情を見せた。10月の「共同通信社杯」では果敢な競走で復調ぶりをアピール。さらに上積みがある。今回は脅威。



牛山 貴広 [茨城・92期・S1]

武田豊樹の愛弟子が本格化してきた。以前より積極性が一段と増し、追い込み陣からの信頼は厚い。1着回数は少ないが、2、3着と連対は果たしてはいる。これは先行選手として誇れる数字でもある。GII「共同通信社杯」の二次予選では平原隆の前を走るなど先行選手としての地位も着々と築いてきた。今回も風を切り走る。



菊地 圭尚 [北海道・89期・S1]

最近では自力だけでなく展開に依って何でもこなせる器用な身につけてきた。10月のGII「共同通信社杯」は予選を快勝したが、二次予選敗退。それでも最終日は2着と健闘した。最後までレースを諦めない姿勢はファンを魅了した。当バンクとの相性は良く、F1での優勝経験もある。本命不在の今回はチャンス十分だ。

Table with columns: 静岡バンク過去成績 (直近3場所), 2006年11月F I, 2008年3月G I, 2011年8月F I. Lists performance records for various riders.